

学校の課題解決に生かすガイダンスカリキュラムの実施・熊谷市における実践

—ガイダンスカウンセラーの支援による「社会性を育てるスキル教育」の中小連携実践—

特定非営利活動法人 日本教育カウンセラー協会

自治体・団体の概要

(1) 「日本教育カウンセラー協会」の規模等

- 設立年月日：平成14年7月10日
- 設立目的：教育カウンセリング（ガイダンスカウンセリング）の考え方や方法を普及し、教育に貢献することをめざす。教育やカウンセリングに関する研修会等の開催、専門援助者の養成および資格認定、学校・教育機関へのサポート活動の企画、運営等を行っている。

○ 代表者：会長 國分康孝 Ph.D.

○ 認定会員数：13,000名

○ 連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15

電話：03-3941-8049

FAX：03-3941-8116

URL：<http://www.jeca.gr.jp/>

メール：jim@jeca.gr.jp

(2) 関連団体「スクールカウンセリング推進協議会」

学校教育に役立つ「子どもたちの発達課題を解き成長を援助するスクールカウンセリング」を、有効に機能させるために参加団体が協力する。発達課題とは、子どもたちの①学業、②人格形成・社会性、③進路、④健康面の発達を指す。これらに対して、すでに発生した問題に対する個別面接だけでなく、予防・開発的に、教室での集団指導や学校組織でのチーム対応、教師へのコンサルテーションなど多様な方法を用いて、学校教育の充実に資することをめざす。

地域の特徴・事業実施の背景

(1) 地域の特徴

本研究の実践の場である熊谷市では、学校・家庭・地域が一体となって「知・徳・体のバランスのとれた教育」を推進し、「生きる力」そのものである「熊谷の子どもたちはこれができます！『4つの実践』と『3減運動』に全市をあげて取り組んでいる。

4つの実践とは、朝ご飯をしっかりと食べる、呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする、「ありがとう」「ごめんなさい」を言う、友達をたくさんつくるである。3減運動とは、テレビの時間を減らす、ゲームの時間を減らす、携帯電話やパソコンにふれる時間を減らすことである。

本研究は、この「4つの実践」に関する学校における具体的な取組である。これにより、学校独自の課題を解決し、小一プロブレム、中一ギャップの解消を目指すものである。

(2) 事業実施の背景

ガイダンスカリキュラム（GC）を教育課程に位置づけ、継続的に実施するためには、具体的には『社会性を育てるスキル教育 35 時間』をベースに学校の課題に即したカリキュラムの立案、実施する授業者（担任）のスキルアップが必要条件である。ガイダンスカウンセラー（外部の専門家）がそれぞれについて指導助言し、主幹教諭等を中心にした校内体制を確立することで、これらの条件を満たし、無理なく効果の高い実践ができると考え、テーマを設定した。

1 事業のテーマと特徴

現代の子どもたちをめぐって起きる問題は、そのほとんどが対人関係能力や欲求不満耐性の未熟を背景とすると言われている。この前提に立てば、これらの資質やスキルを伸長することで、効率的かつ効果的にさまざまな問題を未然に防ぐことができるものと考えられる。そのためには、ふれあい体験を通して自

他理解を深め、コミュニケーション能力やセルフコントロールの方法を身につけるためのプログラム（ガイダンスカリキュラム、以下GCと表記）を教育課程に位置づけて実施することが最も効果があると考えられる。

このような取り組みは、全国各地で行われ、成果をあげている。しかし、その多くは県・指定都市教育委員会等を中心とした大規模なプロジェクトとして実施されている。このような取り組みを行っていない地区において、一校ないし一中学校区でこのようなGCを導入するには、人的にも物的にも大きな負担を伴うことになる。ガイダンスカウンセラーの配置とこれを中心とした校内体制の構築が必須条件であるが、一般の学校では、これらをすべて引き受けることのできる人材が確保できるとは限らず、また、一人に負担が偏りかねないことから、導入に消極的にならざるを得ないのが実情である。

そこで、本事業では、上記の諸課題についてガイダンスカウンセラー（外部の専門家）が指導助言を行い、校内組織を整備することで、ガイダンスカリキュラムの円滑な導入・実施をはかり、学校および教師の負担を軽減し、継続的に実践できる体制の構築をめざした。

○事業のテーマ

問題行動等を予防し、子どもの人間関係力を高める指導プログラム（ガイダンスカリキュラム）の系統的・継続的な実施のための条件整備

○ガイダンスカリキュラムとは

知・徳・体の徳、すなわち人間社会で生きていくための力を高める教育活動を強化するために、道徳・特別活動・総合的な学習の時間などを構造化することを通して、学校教育目標を具体的に実現する計画的・継続的な学校教育課程（カリキュラム）のこと。学校の中でのカリキュラム作成のハードルを少しでも低くするために、今回のカリキュラムづくりの特徴として書籍『社会性を育てるスキル教育 35 時間』（清水井一編、図書文化社）を基本ベースとしてカリキュラム作成を行った。

○ガイダンスカウンセラーとは

ガイダンスカウンセラーとは、幼・小・中・高校・中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校において、子どもの学習面、人格・社会面、進路面、健康面における発達を援助する専門家。すべての子どもの発達課題に対する一次的援助サービス、苦戦している子どもの援助ニーズに応じる二次的援助サービス、不登校や発達障害などで特別な教育ニーズのある子どもに対する三次的援助サービスを、リーダーあるいはコーディネーターとして援助を行う。さらに地域と連携して子どもたちの支援にあたり、家庭の支援を行う。学校教育目標を実現するための支援者。



2 事業の内容

(1) 基本的な考え方

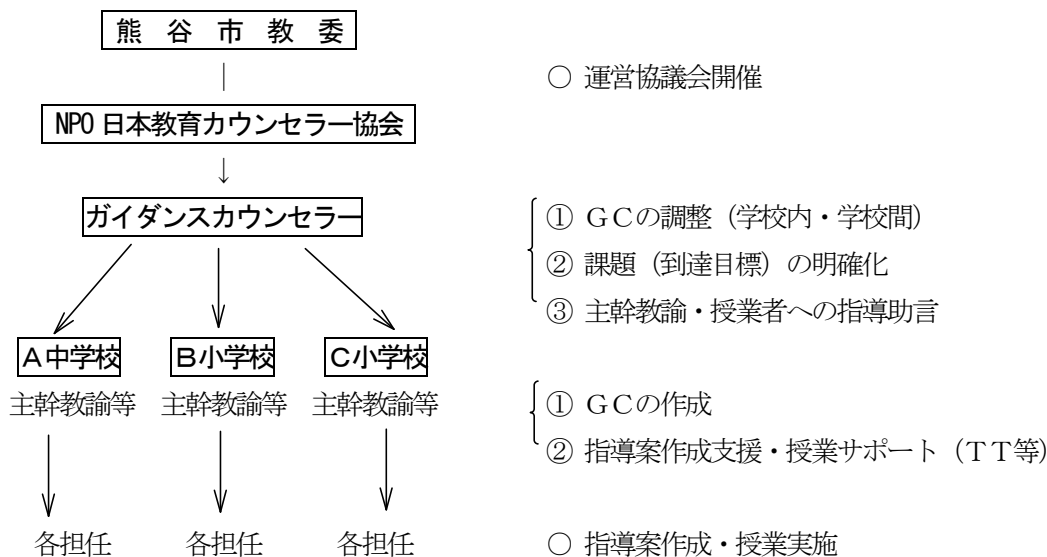
GCを教育課程（特活・総合）に位置づけ、各学年で長期的・継続的に実施していくためには、実施体制の確立と授業内容の標準化が絶対条件である。そのため、ガイダンスカウンセラーと主幹教諭等が連携して、子どもたちの実態に応じて課題（到達目標）を設定し、それに基づいて各学年 11 時間の GC を編成、また指導案の基本形式を策定した。小学校から中学校への系統性を確保するために、ガイダンスカウンセラーが各学年の課題を校種間で調整した。また、Q-U 調査に基づく子どもたちの実態についても教員間で共有すべく事例研究を含む研修をガイダンスカウンセラーが行った。授業については、主幹教諭等がかかわり、主として各担任が指導案を作成・実施した。

授業力アップのため、ABC校相互交流による研究会を開催、学級担任全員が順次授業を公開し、ガイダンスカウンセラーが指導助言を行った。

(2) 推進組織体制

モデル校：埼玉県熊谷市A中学校・B小学校・C小学校

熊谷市教委より指導主事3名、当協会より3名および当該校で運営協議会を組織し推進した。



(3) 各学校の課題

アンケート調査（児童生徒、教師）により、次のような課題が見いだされた。これらの課題を十分に考慮してGCを編成して実施し、中1ギャップの解消をめざすこととなった。

B小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校区に養護施設があり、基本的な生活習慣の定着やしつけなど幼少期の家庭教育が十分に行われていない子どもが多い。小学1年時より社会性を身につける必要がある。 ・単学級なために友達関係が固定化する状況が続いている。
C小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・人とうまく関われない子どもが多い。 ・保護者と教師・学校間の信頼関係をうまく築くことができず、教師・学校批判が常態化しているため、学校の教育機能が十分に発揮できていない。教師・保護者・児童の三者が社会性を身につける必要がある。
A中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・B小学校とC小学校の課題（幼少期のしつけ面、保護者の対応）がそのまま引き継がれている。 ・B小学校とC小学校とA中学校の指導方法の違いがマイナスに働いているため、中一ギャップによる不適応問題を抱えている。

(4) 具体的な取組み

① 年間指導計画

各学校の課題に基づき、主幹教諭がガイダンスカウンセラーのスーパービジョンを受けて作成する。したがって学校ごとに内容が異なる（表a、表b）。

表a 【B小学校年間計画例】

【子ども達に社会性を育てるプログラム】一覧表

	低学年			中学年			高学年		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年			
4月	ゲーピング (話の聞き方)	おぼえてもらおうわたしの 名前(自己紹介の仕方)	はじめまして 今日から 友だち(自己理解・他者 理解の仕方)	すすんであいさつをしよ う(あいさつの仕方と人 のかかわり方)	仲間のよきをもっと知ら う(紹介の仕方)	最高学年としてのスター ト(自己紹介の仕方)			
5月	「いーれー!」「いーい よ!」(遊びの入り方)	すてきなあいさつ(すてき な挨拶の仕方)	ぼくもわたしたちもあいさつ しよう(あいさつの仕 方)	楽しいクラブ活動にする ために(上級生とのかか わり方)	上手な聞き方を学ぼう (話の聞き方)	多様な気持ちの伝え方を 学ぼう(非言語における 表現の仕方)			
6月	なかよくあんな下校は さん(安全な下校の仕方)	ひとりですでできるもん(明日 の学習の準備)	あふわわ言葉・チクチク 言葉(あたたかい言葉か け)	授業に間に合うようにし よう(時間の守り方)	協力する楽しさを知ろう (協力の仕方)	正しいことを進んでやろ う(トラブル解決策の考 え方)			
7月	スイッチオン! (チャイム席)	心のチャイム席(時間を守 る)	あなたのすてきなところ は○○だよ!(長所の見 つけ方)	ていねいな言葉づかいそ しよう(ていねいな言葉 の使い方)	自分と友達の違いを認め 合おう(他者理解の仕方)	夏休みの生活設計(あい さつの仕方)			
9月	わかるかったときはあやま らうね(あやまり方)	目を見て話を聞こう (話の聞き方)	耳をかたむけて「人の話 を上手に聞こう」(上手 な話の聞き方)	運動会大作戦(協力、団 結することの大切さ)	いじめのない学級づくり (はつきりした断り方)	運動会に向けて(共同作 業における自己理解の仕 方)			
10月	いいとこいっぱい(自分 のよさを知る)	いっしょにあそぼう○○ち ゃん(仲間の誘い方)	社会見学へのアピール活 動(仲間と心を合わせる)	友だちのよさを発見しよ う(他者理解の仕方)	チームワークを高めよう (仲間の励まし方)	薬物乱用防止(誘惑に対 する拒否の仕方)			
11月	みんなであそぼう・なか よくなろう(友達づくり)	ごめんね(あやまりかた)	やさしくしたのもう(願 み方)	じょうずにたのめるかな (お願いの仕方)	こんなときどうする(1) (奉仕活動の取り組み方)	修学旅行を有意義に(郊 外におけるあいさつの仕 方)			
12月	合い言葉は「そうだね」 (上手な聞き方)	すごいね○○さん(友達 のよさに気づく)			こんなときどうする(2) (はつきりした断り方)	だれとでも仲よく(不快 な気持ちの伝え方)			
1月	あふわわ言葉とチクチク 言葉(あたたかい言葉か け)	僕にもできる整理整頓(身 の周りの整理整頓)	すなおに言えるかな(上 手な断り方)	忘れ物をなくそう(学習 用具のそろえ方)	上手に注意しよう(上手 な注意の仕方)	感謝の気持ちを伝えよう (感謝の気持ちを伝えよ う)			
2月	クラスのみんなのいいと こさがし(相手を思いや る気持ち)	みんなにあつたよわたしの よいところ(自分のよさを 知る)	こんな自分になりたいな (自己理解の仕方)	自分の決意を話そう「二 分の一人入式に向けて」 (意思発表の仕方)	こんなときどうする(3) (ストレス解消の仕方)	中学校に向けて(将来の 希望の持ち方)			
3月		もうすぐ3年生(新しい生 活への意欲の持ち方)	ありがたうの手紙(感謝 の気持ちの表し方)	5年生に向けて(自己理 解の仕方)					

【参考文献】「社会性を育てるスキル教育(3.5時間)」(図書文化社) 編者 康幸監修、清水 井一編集

② 一時間の展開

年間指導計画に基づき、各学級担任が指導案を作成する。基本的な流れは次のとおりとした。

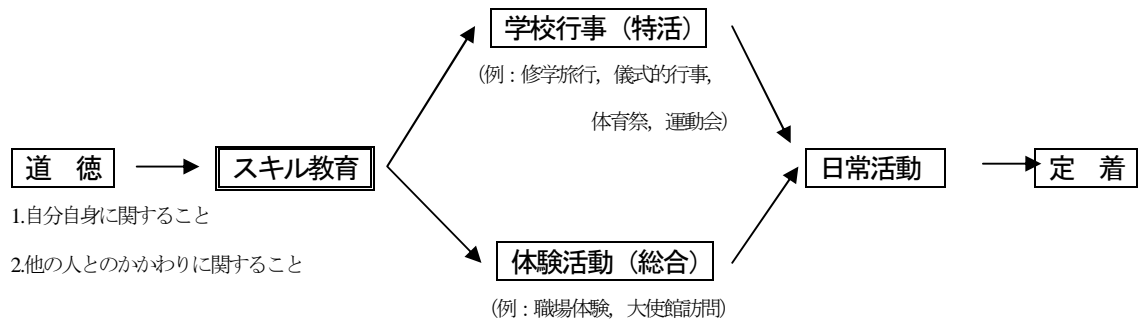
【導入………気づく】 アンケート結果などを示し課題を提示する
 【展開………学ぶ】 教師のモデリングを見てロールプレイを行う。体験する
 【終末………心の通い合い】 スキルについて確認し、意見をシェアする。日常生活の中で実践するよう心がける。

下表は一般的な指導案の例である。

	学 習 活 動	学 習 内 容	・指導上の留意点 ◎評価◇言葉かけ	資料
導 入 5 分	1 過去に、ちょっとやめてほしいなと思った場面を想定する。 ①どんな場面で ②自分はどうした ・今までの体験から想起。	・やめてほしい場面 ①そうじの時間遊んでいる。 ②係や委員会活動で仕事をさぼっている。 ③登校班で下級生が並んでくれない。 ④たてわり活動で下級生が勝手なことをしている。	・学校生活の中で、ルールを守れない友だちに注意した経験を想起させ、共通理解を図る。 ・本時の学習を理解するため、学級や学校のルールを守れていない行為についてのスキル学習が必要であることを確認させる。	学習の 約束
展 開	2 本時のねらいと活動内容を知る。 ・本時のめあてを確認する。			
3 5 分	友だちに、なおしてもらいたいことをはっきり伝えよう！			めあて
	・学級のアンケート結果を知	・アンケート結果から	・学級の実態のアンケート結果か	アンケ

③ 学校の実践の流れ

道徳や学校行事、総合的な学習の時間とも関連づけながら展開することを基本とする。年間、これを繰り返しながら進める。



④ 事業を実現するための「ガイダンスカウンセラーの仕事」

- ・教育委員会と各校をつなぐコーディネーション (校内で主幹と教諭を, 校長と主幹, 校長同士をつなぐ)
- ・個々の教師へのコンサルテーション (指導案の検討ならびに教師への指導)
- ・研究授業後の研究会
- ・学校・学級の課題のアセスメント

【実際の授業風景】



【授業研究会】



【小中合同研修会】



【保護者会でもスキル教育を実施】



3 事業の成果

(1) 事業による変容

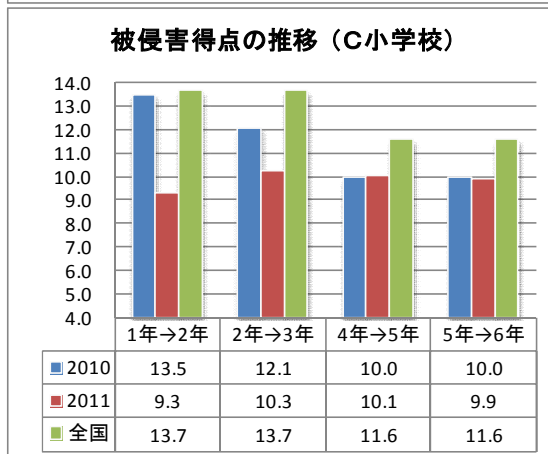
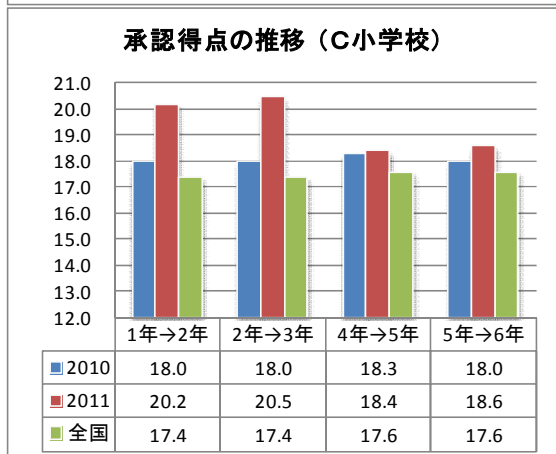
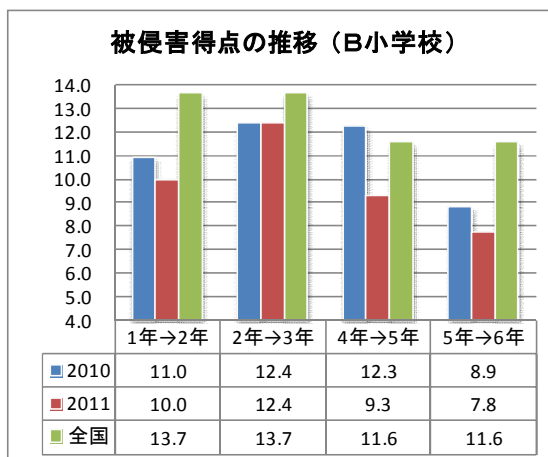
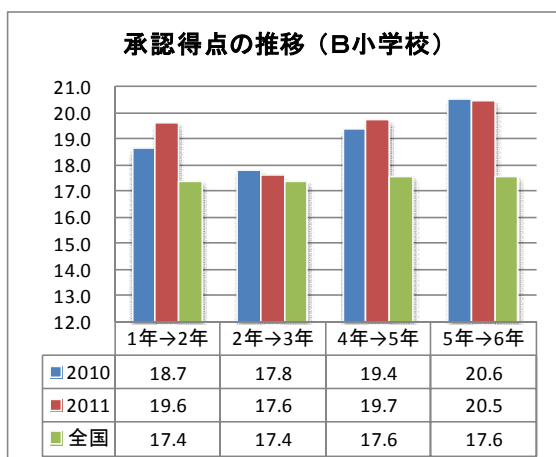
各モデル校とも、11回分のガイダンスカリキュラムを作成し、実施することができた。また、主幹教諭等を中心とした体制を強化することで、今後とも継続的に実施するための基盤をつくることができた。これを支えるためには、専門家（ガイダンスカウンセラー）のきめ細かい指導が欠かせないが、本年は公開授業時のみならず、校内研究会で指導案作成から実際の授業について一人ひとりの授業者に対して、合計60回にわたり助言した。結果として、全身体制で円滑に実践を進めることができた。

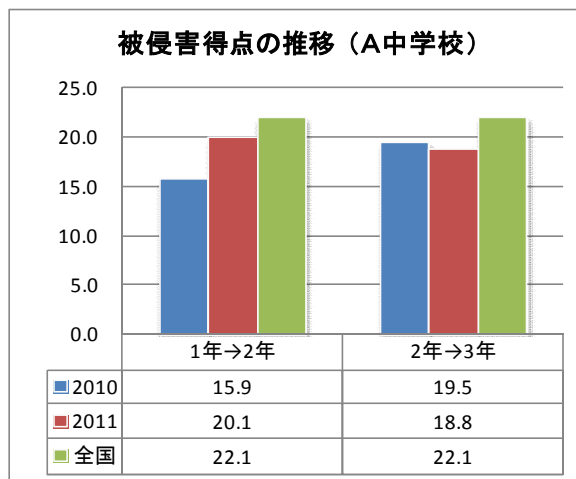
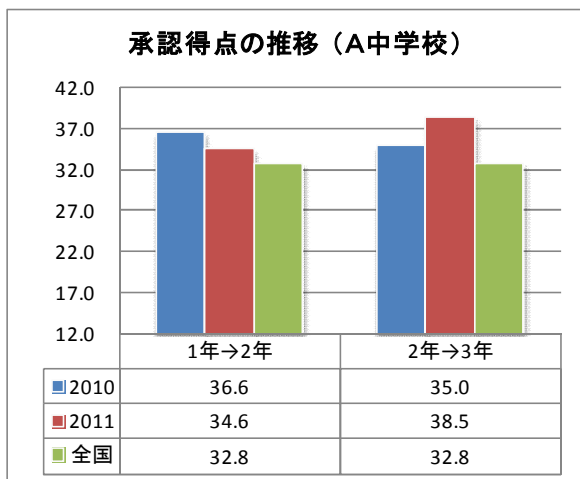
児童・生徒への効果は、事前・事後にQ-U（学級満足度尺度）を実施して検証した。グラフは、昨年指導前と本年指導後をQ-U調査の承認および被侵害得点について同一児童生徒を追跡比較したものである。

〔B校〕被侵害得点はほとんどの学年で改善されており、いじめ等により居心地の悪さを感じる児童生徒が減少していることがうかがえる。また、学力検査の結果からも、平均SSで、昨年：48.9→本年：50.5と、明らかな上昇傾向が見られた。生活面・学習面とも望ましい方向に推移していると言える。

〔C校およびA校について〕C小学校低学年に関しては、各指標とも明らかに向上している。しかし、高学年では、変容が見られない、ないしは低下している指標がいくつか見られる。またA中学校では、3年は明らかな向上が見られるが、2年では両指標とも望ましくない方向への変容が見られる。一般的な傾向として、学年が上がるにつれて、スキルの定着が遅く、変容がおこりづらいといわれている。B小学校では、準備期間も含めて、3年間の蓄積があるが、C小学校およびA中学校では、ガイダンスカリキュラムの本格的な導入が本年度からであることからくる相違であると考えられる。このことは、低学年からの計画的・系統的な指導が重要であることの証左と言えよう。

とはいうものの、両校とも全国の平均を上回る適応状態を維持できていることは取組の成果と考えられる。





(2) 事業による成果

カリキュラムは一度作ったら完成という性格のものではなく、数年にわたって改善を繰り返す必要がある。カリキュラム作成は時間をかけて進めていくものであることがわかった。例えば、1年目は書籍（『社会性を育てるスキル教育 35 時間』）をもとに学校・学年の課題を踏まえて選び出し、2年目は学校・学年の課題を踏まえてさらに修正をして、3年目はさらに全体を見直すなどのようにである。

次に各学校の成果を述べる。

B 小学校における成果としては

- ・教師の指導技術（表情、提示技術、効果的な言葉のかけ方、集中のさせ方、学習規律の向上など）が向上した。
- ・社会性を育てるスキル教育に対する保護者の理解が進み、学校に対する理解も進んだ。
- ・児童に社会性を育てることができ、人権感覚を育成することができた。

C 小学校の成果としては

- ・児童のコミュニケーション能力を高め、正しいスキルを身につけることができた。
- ・児童が主体的に活動し、児童会や行事の中心となり積極的に活動できるようになった。
- ・教師の児童理解が深まるとともに、あたたかな言葉掛けをできるようになった。
- ・学校の教育に対する保護者の理解が深まり、より協力的になった。

A 中学校における成果としては

- ・2年生の職場体験学習やスキー教室であいさつや返事など十分にできるようになった。
- ・PTA 理事会でスキル教育の体験講座を行ったところ、保護者の子どもへの望ましい接し方の理解が深まった。
- ・教師の指導技術が高まった。

上記のように本事業において、ガイダンスカウンセラーは、「グループ対応」「コーディネート」の機能を十分に果たすことを通して、学校の課題すなわち児童生徒ならびに教員集団の課題を改善することができる。

教育委員会としては、本事業により熊谷市の「4つの実践」を具体化し前進することができた。学力向上は生徒指導の充実が前提なので、今後は学力向上が実現可能な課題として認識されるようになった。

4 今後の方向性展望

子どもたちに人間関係スキルや社会性を定着させるには、単に授業でスキルを教えるだけでは不十分であることは以前から指摘されている。実際場面でどれくらい使えるか、つまり「わかる」から「できる」を目指す実践が不可欠である。

そのためには、たとえば道徳の授業や特別活動・総合的な活動の時間（学校行事、職場体験など）と関連づけてタイミングよく計画し、基本的な考え方を確認し、かつ直接体験できる場を保障していく必要がある。このようにガイダンスカリキュラムは学校教育課程に位置付けることが求められる。

また、家庭との連携も欠かせない。保護者にもこのような取組みの重要性を啓発し、協力を得ることを年度当初から計画していくことが望ましい。

一方で、同じ授業を受けてもスキルの定着の難しい児童生徒がいることも事実である。このような児童生徒には、特別支援教育と連携して個別的なサポートも含めて配慮していくことも重要である。

今後、以上のような視点も視野に入れて計画をしていく必要があると言える。

熊谷市では、『熊谷の子どもたちは、これができます！』という全体教育目標を策定している。今回のスキル教育のカリキュラムは、この目標を実現するための具体策として重要であり、これをモデルとして全市で取り組み、継承・発展されることが期待される。

熊谷の子どもたちは、これができます！

アクセル

4つの実践!

- 朝ごはんをしっかりと食べる。
- 呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする。
- 「ありがとう」「ごめんね」と言う。
- 友だちをたたくきんつくる。

生きる力

家族いっしょに朝ごはん

はい!

ありがとう

ごめんね

元気いっしょ!

学力・体力
やる気を
上げよう

ブレーキ

3減運動に挑戦!

- 減** テレビの時間を減らします。
- 減** ゲームの時間を減らします。
- 減** 携帯電話やパソコンに占れる時間を減らします。

家族で約束を!

- 家族との会話の時間を増やします。
- 読書の時間を増やします。
- 学習・準備の時間を増やします。

熊谷市青少年健全育成市民会連合会・熊谷市幼稚園小児保健指導会・熊谷市PTA連合会・熊谷市校長会・熊谷市教員会・熊谷市教育委員会